

行政視察報告書

令和 6 年 5 月

議会運営委員会

- 1 視察実施日・・・・・・・・・・・・・・・・P1
- 2 参加者・・・・・・・・・・・・・・・・P1
- 3 視察先及び調査事項・・・・・・・・P1
- 4 視察先の概要・・・・・・・・P1～P3
- 5 調査事項の概要・・・・・・・・P4～P5
- 6 委員会としての視察のまとめ・・・・・・・・P6
- 7 各委員報告書・・・・・・・・P7～P15

1 視察実施日

令和6年5月15日(水)

2 参加者

委員長	小川忠市
副委員長	藤尾 潔
委員	小紫泰良、岸本真知子、大畑一千代、別府みどり
議長	高瀬俊介
副議長	長谷川幹雄
事務局	壺井初美

3 視察先及び調査事項

視察先	滋賀県甲賀市
調査事項	議会改革について (1) 予算決算常任委員会の運営(審査) (2) 議会ICTの取組

4 視察先の概要

平成16年10月1日、甲賀郡水口町、土山町、甲賀町、甲南町及び信楽町の5町の新設合併により誕生。

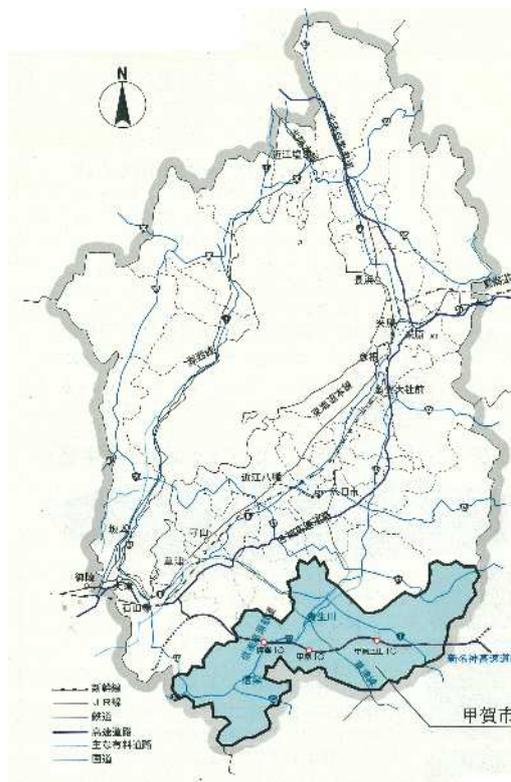
滋賀県の南東部に位置し、東西43.8km、南北26.8km、総面積481.62km²であり、滋賀県の面積の約12%を占める市である。

東に鈴鹿山系を望む丘陵地で、野洲川、柚川、大戸川沿いに平地が広がり、琵琶湖の水源涵養や水質保全に重要な役割を担っている。

歴史を遡ると、全国的に知名度の高い甲賀忍者のモデルとなった「甲賀衆」ゆかりの日本遺産のほか、奈良時代に聖武天皇によって大仏造営の地に選ばれた紫香楽宮の史跡や、中世にこの地を治めた水口岡山城といった国指定史跡を含む重要な史跡が点在している。

一方で、東西に新名神高速道路、国道1号、南北に国道307号が通過する広域交通の要衝で、3つのインターチェンジを中心とする大都市圏へのアクセス性の良さと「日本遺産 信楽焼」や「甲賀の置き薬」などのものづくりの長い歴史を背景に立地が進んだ工業では、製造品出荷額で長年県内トップを誇っている。

近年は、令和4年に重要物流道路に指定された名神名阪連絡道路の整備、リニ



ア中央新幹線の開業など、将来ますますの発展が期待される中、アフターコロナ時代の課題に挑むまちづくりを進めている。

人 口 88,139人（男：44,286人、女：43,853人）

世帯数 37,875世帯

（令和6年4月末現在）

【甲賀市議会について】

(1) 議員定数・任期

- ・ 条例定数 24人（現員数21人）
- ・ 任 期 令和3年11月1日～令和7年10月31日
- ・ 議員定数の変遷

	議員定数	備 考
平成16年10月1日～	30人	
平成21年11月1日～	27人	
平成29年11月1日～	24人	選挙区の廃止

(2) 議員年齢構成

40歳未満	40歳～ 50歳未満	50歳～ 60歳未満	60歳～ 70歳未満	70歳以上	計
2人	2人	3人	8人	6人	21人

（平均年齢 59歳：令和5年5月1日現在）

(3) 期数別及び男女構成

期 数	1期	2期	3期	4期	5期	6期	計
人 数	9人	3人	4人	2人	2人	1人	21人
内 訳	男 性	8人	1人	4人	2人	—	17人
	女 性	1人	2人	—	—	—	4人

(4) 委員会構成及び所管事項

名 称	定 数	所 管 事 項
議 会 運 営 委 員 会	8人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議会の運営に関する事項 ・ 議会の会議規則、委員会条例等に関する事項 ・ 議長の諮問に関する事項
総 務 常任委員会	8人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合政策部、総務部、会計管理者、選挙管理委員会、公平委員会、固定資産評価審査委員会、監査委員及び議会に関する事項 ・ 他の常任委員会の所管に属さない事項
厚生文教 常任委員会	8人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民環境部（環境衛生、環境保全及び廃棄物処理に関する事項並びに新エネルギー及び再生可能エネルギーの推進に関する事項を除く）、健康福祉部、こども政策部及び教育委員会に関する事項

産業建設 常任委員会	8人	・産業経済部、建設部、上下水道部、農業委員会及び市民環境部(環境衛生、環境保全及び廃棄物処理に関する事項並びに新エネルギー及び再生可能エネルギーの推進に関する事項に限る)に関する事項
予算決算 常任委員会	24人	・予算及び決算に関する事項
議会改革推進 特別委員会	6人	・議会基本条例の検証、議会改革の推進に向けた調査研究

(5) 協議、調整の場

会議名	定数	付託事項
災害対策会議 (BCP)	6人	・災害時における議会機能を維持するための情報収集、情報提供、協議及び調整
広報広聴 委員会	20人	・議会広報紙の編集及び発行並びに議会広聴活動に関する協議

※甲賀市議会事務局資料から抜粋

5 調査事項の概要

(1) 予算決算常任委員会の運営（審査）について

甲賀市議会では予算並びに決算審査は、加東市議会と同様に3月定例会で予算特別委員会を、9月定例会では決算特別委員会を設置して審査を行っていた。

特別委員会委員の選任方法は議員の約半数を隔年で委員に選任していた。具体的には、予算特別委員が決算特別委員を務め、次年は当該委員以外の議員が予算特別委員と決算特別委員を務める方法としていた。

平成29年11月から議会改革推進特別委員会において委員会関係の見直しが行われ、4常任委員会を3常任委員会へ再編すると同時に予算及び決算特別委員会を全議員で構成する予算決算常任委員会に変更した。

また、上程議案は原則常任委員会（総務、厚生文教、産業建設、予算決算）に付託することとしている。（人事案件は即決）

【効果】

- ・特別委員会の場合、議決後、特別委員会の任務は終了し、閉会とともに廃止となるため継続性がなかったが、常任委員会化によりこれらの継続性が担保された。
- ・予算が適正に執行されているかなど、議会の監視機能の強化につながった。

【課題】

- ・委員会で審査したものを本会議で審議するのが議会の基本であるが、全議員が常任委員の場合、同じ議員が審査と審議を行うことになり、委員会へ付託する意味の有無などの課題。
- ・委員が多いため質疑等の時間を要する。

(2) 議会ICTの取組について

甲賀市議会では、タブレット導入の数年前より議会ICTの必要性について、議員間で一定の理解があった。平成29年11月の改選から議員定数が24人になり、議員の平均年齢が若干下がった。

議長選挙の所信表明で議会ICT推進が掲げられたことから、取組が加速し、議員からは消極的な意見等はほとんどなかった。

タブレットの活用状況については、現在、全議員が基本的な運用は問題なく使いこなしており、議会関係のすべての資料、スケジュールが確認できるため、庁舎内や自宅、屋外など活用頻度は極めて高い。また、災害や有事の際にも活用できるよう、定期的な訓練（議員の安否確認訓練・総合防災訓練での活用）も実施している。

また、ペーパーレス化等の効果等を検証するため、議会改革推進特別委員会が主体となり全議員にアンケート調査を行い、その結果を分析し、全議員で共有している。

【タブレット導入の経緯（抜粋）】

- ・平成 29 年 12 月 タブレット・デモ（全員協議会）
- ・平成 30 年 3 月 平成 30 年度当初予算に導入経費計上
- ・平成 30 年 6 月 タブレット使用ガイドライン策定
- ・平成 30 年 7 月 タブレット配布・操作研修（2日間）
- ・平成 30 年 8 月 常任委員会で運用開始
- ・平成 30 年 9 月 9月定例会本会議で運用開始

【タブレット端末導入の効果】

■ ペーパーレス化による効果

- ・印刷費及び郵送費の経費縮減（年間約200万円）
- ・紙資源削減、電力削減、ゴミ削減等環境への配慮効果
- ・会議録の電子化
- ・職員人件費の削減（働き方改革への寄与）
（資料印刷時間、資料作成等の省力化、時間外勤務の削減）

■ 議会運営の効率化

- ・議長からの議事運営上の連絡
- ・付託表等の追加資料の配布の迅速化
- ・一般質問での電子パネルの使用
- ・議会だより編集に活用

■ 情報伝達の即時化及び情報共有強化の効果

- ・議案書、委員会資料等の事前配布
- ・常任委員会、議運営などの情報共有
- ・メッセージや掲示板を活用した情報伝達
- ・議会スケジュール、議長公務等の情報共有
- ・スケジュール調整の迅速化
- ・過去の会議データの確認
- ・インターネット閲覧
- ・災害等緊急時の活用（議会BCP）

6 委員会としての視察のまとめ

(1) 予算決算常任委員会の運営（審査）について

甲賀市議会では前回視察の能美市議会と同様に委員会審査重視主義で全議案を常任委員会に付託して審査している。

本会議中心で審査している加東市議会の運営とは根本的な違いがあり、どちらの方法が良いか悪いかの判断は難しい。

今回の視察でも「予算決算常任委員会」の設置について特に積極的な意見はなかった。ただ、議案に軽重はなく、それを議会運営委員で選別することに対し違和感があり、議案は原則委員会付託すべきとの意見もある。

委員会主義においても本会議主義においても議決するためにしっかりと審議を尽くすことに重点おくことが重要である。

現時点で加東市議会に予算決算常任委員会の早急な設置の必要性は認められないが、現状の補正予算案の審査では修正・附帯決議・採決に関して熟慮の時間がとれないことを課題としているが、現在の審議の在り方の中で善処することも検討しながら、予算決算常任委員会の設置については継続して調査研究していくこととする。

なお、委員会付託省略議案については必要に応じ、質疑の後に休憩を求めするなどして審議を深めていくこととする。

※（参考：能美市議会視察後の議会運営委員会のまとめ）

「現時点で加東市議会に予算決算常任委員会の早急な設置の必要性は認められないが、補正予算案の審査においては慎重な審査の必要もあることが予想されることから予算決算常任委員会の設置については継続して調査研究していくこととする。」

(2) 議会ICTの取組について

甲賀市議会の視察でも前回の能美市議会視察と同様にタブレット端末導入の効果を改めて検証することができた。

議会DXの推進、タブレット端末の導入については全委員の意見が一致したところである。本市議会でも使用用途に合わせた選択肢を設け、導入時の操作研修等をしっかり行うことで課題は解消されたと考え、負担の少ない方法で導入を進める。また、改めて導入の目的や目指す効果を明確にし、全議員の理解を得る必要がある。

本市議会が現グループウェアを導入した際は、モバイルアプリの活用が現在ほど一般的ではなかったため、モバイルアプリの利便性についての検討が不十分であった。今後、必要な場合はグループウェアの乗換えについても検討すべきと考える。

全員協議会で指摘のあったマイクロソフト office については自己の責任において必要な者がインストールすること、通信費については公費負担とすること等、端末導入に併せて、これらの方針についても検討する必要がある。

※（参考：能美市議会視察後の議会運営委員会のまとめ）

「加東市議会においても令和7年度よりタブレット端末の導入に向け環境を整備していく必要があるため、令和6年度に詳細を決定し、全員協議会で導入プラン等を報告し、全議員のスムーズな運用開始を目指す。」

7 各委員報告書

行政視察報告書（所感）

議会運営委員会委員長 小川 忠 市

【予算決算常任委員会の運営（審査）について】

甲賀市議会では、委員会審査重視主義で全議案を常任委員会に付託（人事案件は即決）して審査している。本会議中心で審議している加東市議会の運営とは根本的な違いがあり、どちらの方法が良いか悪いかの判断は難しい。

ただ、現在の加東市議会の本会議での補正予算の審議においては、修正の必要がある場合には、即決のため審議時間の関係上なかなか難しい面があるように感じる。

また、特別委員会（予算や決算）の設置は議会の議決が必要であり、毎回のその手続きも煩わしさがあると感じているのも事実である。

なお、当議会運営委員会では、先般の能美市議会視察後の議会運営委員会のまとめとして「現時点で加東市議会に予算決算常任委員会の早急な設置の必要性は認められないが、補正予算案の審査においては慎重な審査の必要もあることが予想されることから予算決算常任委員会の設置については継続して調査研究していくこととする。なお、今後は委員会付託省略議案については必要に応じ、質疑の後に休憩を求めるなどして審議を深めていく。」としており、今後も継続して調査研究の必要性はあるのではないかと。

前回の能美市議会と今回の甲賀市議会の視察を終えて、委員会主義においても本会議主義においても議決するためにしっかりと審議を尽くすことに重点おくことが重要であると感じた。

【議会ICTの取組について】

甲賀市議会では、平成29年の改選後から議長選挙の所信表明で議会ICTの推進を掲げたこともあり取組が加速し、翌年の平成30年8月に常任委員会で、9月には定例会本会議で運用を開始している。導入の検討から運用まで一年も要していないそのスピード感に驚いた。

また、当初から議員からの消極的な意見はほとんどなかったとのことである。

そして、現在は全議員が基本的な運用は問題なくこなしているとのことである。

タブレット導入の効果としては

- ペーパーレス化による印刷費及び招集通知等郵送費の縮減で年間約200万円の経費削減。
- ペーパーレスによる紙資源の削減、電力削減、ごみ削減等の環境への配慮効果。
- 資料印刷時間、資料差替え時の省力化、時間外勤務の削減など職員人件費の削減。（働き方改革の推進）

- 議会運営の効率化。
 - 情報伝達の即時化と情報共有の強化。
 - 議会広報紙校正作業の効率化。
- 等である。

前回の能美市議会視察や今回の甲賀市議会視察の結果、タブレット端末導入の効果を改めて検証することができたと感じた。

なお、当議会運営委員会では、先般の能美市議会視察後の議会運営委員会のまとめとして「今回の視察でタブレット端末導入の効果を検証することができた。議会DXの推進、タブレット端末の導入については全委員の意見が一致したところである。加東市議会においても令和7年度よりタブレット端末の導入に向け環境を整備していく必要があるため、令和6年度に詳細を決定し、全員協議会で導入プラン等を報告し、全議員のスムーズな運用開始を目指す。」としておりこの決定のとおり計画どおりに進める。

【その他】

今回視察は、当初今年の1月26日をお願いしていたが、当時の寒波の影響で勝手ながら中止とさせていただきご迷惑をお掛した経緯がある。

今回、改めての視察要望にも快諾いただき感謝申し上げたい。

研修に当たり研修項目に対してご教示いただいた甲賀市議会正副議長並びに議会運営委員会正副委員長、また議会事務局職員の皆様に感謝申し上げたい。

行政視察報告書（所感）

議会運営委員会副委員長 藤 尾 潔

【予算決算常任委員会の運営（審査）について】

私個人は議案を原則委員会付託すべきだと考えているが（議案に軽重はないはずでそれを議会運営委員会で選別することに違和感があること、本会議でも充実した審議ができるというのであれば、そもそも委員会付託の意味がないこと。）、その考えが当方の委員会で共有できない以上、常任委員会化は難しいようにも感じている。

私の課題意識としては、現在の方法では議案の修正・附帯決議・採決に関して熟慮の時間がとれないことが大きいので、今の審議の在り方の中で善処していけたらと考える。

【議会 I C T の取組について】

年齢等にかかわらず、前向きに I C T を活用できている様子について意見交換ができた。

グループウェアについてはサイボウズ office を活用されていたが、加東市議会が desknets neo を導入した際にはスマートフォンアプリの活用が今ほど一般的ではなかったため、スマホでの利便性についての検討が不十分だったと感じている。必要な場合はグループウェアの乗換えも検討すべきかと思う

また、全員協議会で指摘があったマイクロソフト office については、必要な者が自己の責任においてインストールしていること、通信費については公費負担とのことであった。タブレット端末の導入に併せて、これらの方針についても検討する必要があるように思う

行政視察報告書（所感）

議会運営委員会委員 小 紫 泰 良

【予算決算常任委員会の運営（審査）について】

・甲賀市議会は、平成29年11月より予算決算特別委員会を全議員による常任委員会にされており、メリットとしては、継続性がなかったものが継続性を担保できたということであった。加東市議会の現行の特別委員会は、そのまま継続性はあるとは考える。

・委員会で審査したものを本会議で審議するのが、議会の基本である。甲賀市議会はこの部分で、「全議員の予算決算常任委員会では、同じ議員が審査と審議を行うことにより、委員会付託する意味などの課題がある。」ということであった。加東市の現状を考えると、委員会付託をしないで即決を行っており、上手く行っている部分も多いと思う。

ただ、やはり委員会で審査したものを本会議で審議するのが、議会の基本であると考えてるので、全議員で、予算決算常任委員会を設置すべきものと考えてる。

【議会ICTの取組について】

・甲賀市議会のタブレット端末の導入効果については、ペーパーレス化などによる経費削減、議事運営上の連絡など議会運営の効率化、情報伝達の即時化、情報共有の強化のいずれも良い導入効果が有ったということであり、加東市でも早急に取り組むべきであると思った。

・甲賀市議会のタブレット機能が、議会だより編集に活用している事例を聞かせて頂き、その機能を活用すれば、加東市議会広報委員会でも効率的に作業が行えるのではと思う。

・現在、加東市議会でもタブレット端末を導入しようとしているが、早急に導入すべきである。

行政視察報告書（所感）

議会運営委員会委員 岸本真知子

【予算決算常任委員会の運営（審査）について】

常任委員会化のメリット

- ・特別委員会の場合は、議決後、特別委員会の任務は終了し、閉会とともに廃止となるため**継続性がなかった**が、常任委員会とすることでこれらの**継続性が担保**できた。
- ・予算が適正執行されているかなど、議会の**監視機能の強化**につながった。
- ・**予算と決算を継続**して審査することができる。

常任委員会化のデメリット

- ・全議員による予算決算常任委員会では、議員が審査と審議を行うことになり、**委員会に付託する意味**などの課題がある。
- ・委員が多いため**質疑等の時間**がかかる。

【議会 I C T の取組について】

タブレット端末導入の効果

- ・ペーパーレス化による**印刷費**及び郵送費の**縮減**（年間約 2 0 0 万円推計）
- ・会議録の電子化（製本→タブレット）
- ・職員人件費の削減（印刷時間、資料差替え時の省力化、時間外勤務）
- ・議会だより編集に活用
- ・常任委員会、議会運営委員会などの**情報共有**（委員外の議員）
- ・災害等緊急時の活用（議会 B C P）→**安否確認**

【私感】

甲賀市は平成 3 0 年 7 月に iPadPro 6 4 GB 1 2.9 インチ L T E モデルのタブレット端末を導入、導入経費として物品購入費約 4 5 0 万円のほか通信費、システム使用料、無線 LAN 工事費等を支出している。当議会（議会運営委員会）でも同等の物品が選択肢となっているが、比較検討物品との価格の差が倍違うというところで、躊躇している。ディスプレイは大きい方が扱いやすいという助言を頂いたことに救われた。

また、議員の年齢層の開きに対し、全議員がタブレットを駆使できているかという部分も**全員が使用できている**とお聞きし、不安を拭い去れたように思えた。

議長選挙の所信表明で議会 I C T の推進を掲げられ、取組が加速したというところも捨てがたい部分である。

行政視察報告書（所感）

議会運営委員会委員 大畑 一千代

【予算決算常任委員会の運営（審査）について】

議員定数24人で、全員が委員とのこと。多すぎるのではないか。

半数にして、予算常任委員会、決算常任（特別）委員会とし、予算を審議した委員が同年度の決算を審議するのはどうだろうか。

採決を急ぐ場合は、本会議で委員会付託し、本会議を休憩にして委員会を開催し、報告書を作成し、本会議を再開し、委員長報告（簡略化はしているが）、討論・採決。手間がかかるだけではないか。

市長は委員会に出席していないとのこと。また、副市長の出席も限られている。政治的観点から答弁する必要もあろうかと思うが。議員としても市長の考えを聞きたいと思っているのではないか。

【議会ICTの取組について】

タブレット導入のスピードには、ただただ驚かされる。全員協議会でのデモから運用開始まで8、9か月。

加東市議会としては、導入の目的や目ざすべき効果をしっかりと立てておくべきとも考える。

ペーパーレス、議会広報作成の迅速化、議員間の情報共有。プラス何か市民に役に立つこと。広報・広聴に役に立つ何かが必要な気がする。

【その他】

甲賀市議会では「委員会代表質問」を行っている。

加東市議会は、政策立案については各委員会が主体となって取り組むこととなり、これを実現するには「委員会代表質問」は有意義で、加東市においても検討する価値は大きいと考える。

全議案委員会付託を原則としているが、効率性を考えると検討しなおすべきと思う。

行政視察報告書（所感）

議会運営委員会委員 別府みどり

【予算決算常任委員会の運営（審査）について】

本会議運営の見直し、続いて委員会運営の見直しを行い、手法と目的を明確にして進め、本会議主義から委員会主義に変更されていた。加東市議会の現状では予算決算特別委員会を設置し、予算と決算を同じメンバーで継続して審査することはできている。分科会方式は合わないと感じるが、委員会主義のメリットも理解はできた。

ただ、委員会の公開方法など重要な検討すべきことも多い。現状から変更することが議会運営の強化、効率的な議会改革になるところまではさらに議論が必要と思う。

【議会ICTの取組について】

執行部のタブレット端末導入に合わせて議会でも導入、文書共有システムはスマートセッション、連絡用グループウェアはサイボウズを採用し、必要なアプリ等は各議員の使用用途により議員各自で判断し、入れている。経費はタブレット端末約450万円、通信費約170万円（保守点検セキュリティ料別・全額公費）、システム使用料年間約90万円が必要とのことであった。

<主な導入効果>

- ・経費削減（年間約200万円）
- ・人件費削減
- ・議会運営の効率化（編集会議に有効）
- ・連絡、情報共有の即時性
- ・災害時緊急時の活用（議会BCP・定期的な安否確認訓練を実施）

等が挙げられた。タブレット端末の導入に消極的な意見はなく、現在の使用状況は最低限の活用は同レベルで行えている（使いこなせていない議員はいない）とのことだった。

加東市議会でも使用用途に合わせた選択肢を設け、導入時の操作研修等をしっかり行うことで課題は解消されると思う。負担の少ない方法で導入を進めていきたい。

【委員会代表質問について】

委員会の総意により、代表者が議場で質問し、政策提言に繋げることが期待できる取組であり、手段としてとても関心を持った。委員会での議論も活性化することが期待できると思う。今後も前向きに研究したい。

行政視察報告書(オンライン) (所感)

加東市議会副議長 長谷川 幹雄

【予算決算常任委員会の運営(審査)について】

予算決算特別委員会を半数の議員によりされていたのを平成29年から予算決算常任委員会を設置され、全議員で取組まれている。それによるメリットとして、継続性が担保できるようになった。議会の監視機能の強化につながった。

予算と決算を継続して審査できるし、事業や予算の全体像が全議員で共有できるようになったようだ。

デメリットとしては、議案が全て委員会付託審査されていることで、委員会で審査したものを本会議で審議するのが議会の基本のなかで、全議員の常任委員会では、同じ議員が審査と審議をすることになり、委員会付託する意味の課題があるようだ。委員が多いため質疑等に時間がかかる課題もあるようだ。

我が市と同じく、予算決算常任委員会設置までは、予算決算特別委員会を設置し、議員の半数が隔年で務めていた。

委員会付託までの流れは、定例会初日に上程し、2日目に議案審査、委員会付託し各常任委員会審査の翌日から予算決算常任委員会審査を行うようだ。補正予算等で急ぐ場合は、上程後直ちに委員会審査行い、即決する場合もあるとのこと。(休憩時間等を利用して審査を行うようである。)

委員会の付託審査をケーブルテレビやインターネットで中継しているとのこと。

予算決算常任委員会には、市長は出席しないが、初日の総括説明と最終日の総括質疑のみ副市長が出席するようだ。

我が市と似ているようで少し違う点もあるが、今後の予算決算常任委員会の設置を導入することの、議論のヒントになった良い視察であった。

【議会ICTの取組について】

議会ICTの推進事業として、平成30年度から取組まれているとのことでタブレット端末50台を購入している。

市の情報系・基幹サーバーと分離したクラウドサーバーを採用して進めているとの説明で、ウイルス対策・セキュリティ対策もされている。

議員用タブレット端末は24時間どこからでもアクセス可能なセルラーモデルを使用しているとのことでした。ペーパーレス会議システムとグループウェアシステムを導入し、セキュリティシステムも導入しているとのことであった。約1年で全ての流れを進め運用開始に至っている。スマートセッションでのペーパーレス会議システムを採用し、会議同期システムを活用されていることに対し非常に感心した。

iPadPro 64GB 12.9インチLTEモデルを採用されている。想像していた金

額より少し安価に思えて全て込で取り組まれ、導入効果としてペーパーレス化により年間200万円程の経費削減につながっている。

議員間の情報共有、情報伝達の即時化、議案書・資料等の事前配布等々導入のメリットは大いにある。広報委員会等での活用も確認しましたが、時間短縮等大いに活用すべきものと思った。また、災害時の自宅や野外での活用もあり使用頻度は極めて高いものがある。

市議会としても、導入を検討しているが、今回の視察において是非とも速やかに推進する方向で進めて行くべきだと感じた。